

第2編 主な事業の経営状況

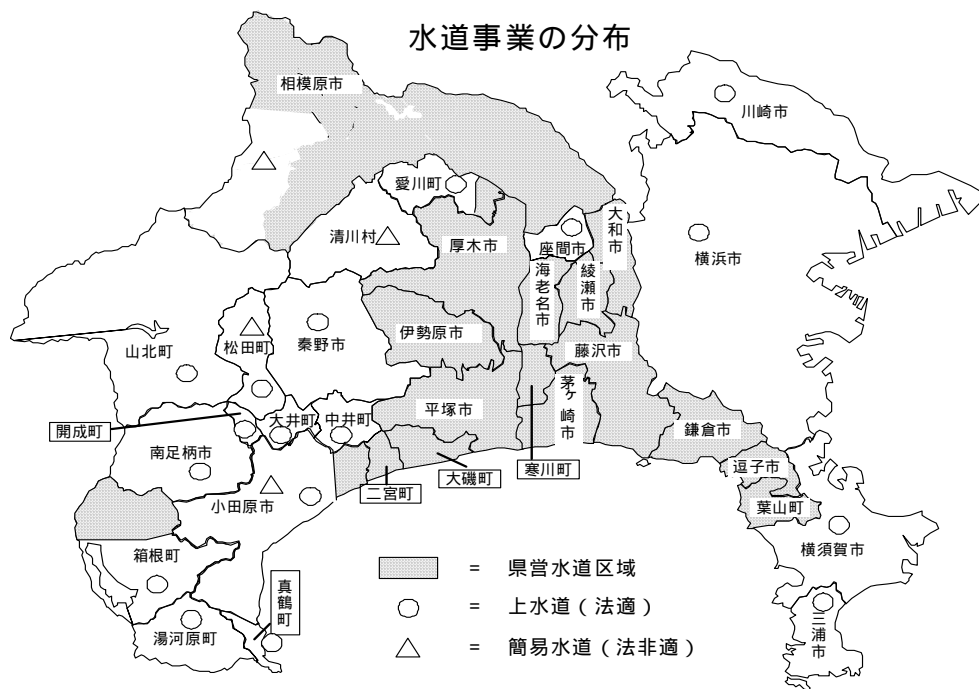
1 水道事業

(1) 事業概要

県内市町村が経営する上水道事業は、平成19年度末現在8市9町で17事業であり、すべてが末端給水事業となっている。

給水人口は、6,170千人で前年度と比べ59千人、1.0%増加し、普及率（対行政区画内人口）は、99.2%（前年度と同率）である。

また、17市町のうち3市町へは市町営水道のほかに県営水道からも供給されており、この県営水道給水人口（27千人）と合わせた上水道事業全体の給水人口は6,197千人となり、普及率は99.6%（前年度と同率）である。



年間総配水量は781,906千 m^3 で、前年度（781,820千 m^3 ）に比べて86千 m^3 増加している。このうち料金対象となる年間総有収水量（給水量）は712,035千 m^3 で、前年度（709,445千 m^3 ）に比べ2,590千 m^3 、0.4%増加し、有収率は91.1%で前年度（90.7%）に比べ0.4ポイント上昇した。

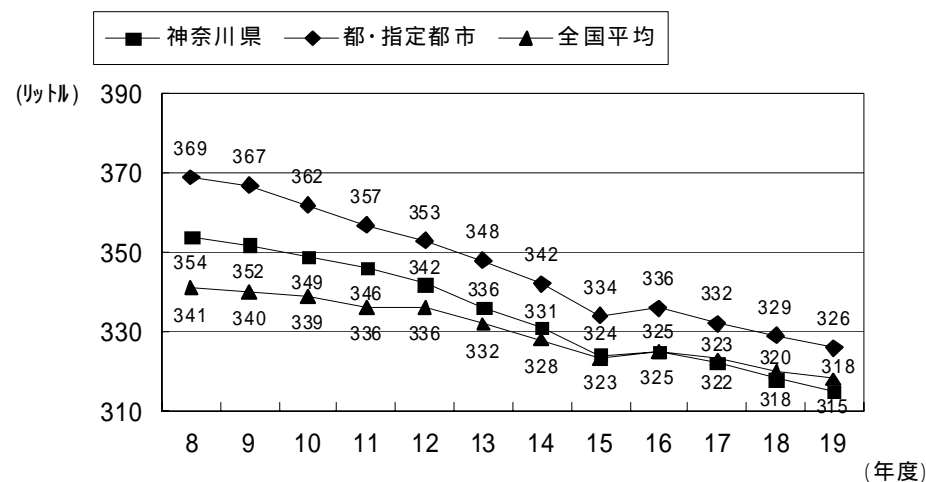
次に、水需要の動向を1人1日平均給水量でみると、平成19年度は前年度（318リットル）に比べ▲3リットル、▲0.9%減少の315リットルとなっている。

年間総配水量と総有収水量

（単位：千 m^3 、%）

項目	年度	15	16	17	18	19	増減	
							(19-18)	率(%)
年間総配水量 (A)		787,685	789,779	791,491	781,820	781,906	86	0.0
うち年間総有収水量 (B)		711,724	715,704	713,076	709,445	712,035	2,590	0.4
有収率 (B/A)		90.4	90.6	90.1	90.7	91.1	0.4	-

水需要の推移（1人1日平均給水量）



(2) 経営状況

ア 経常収支

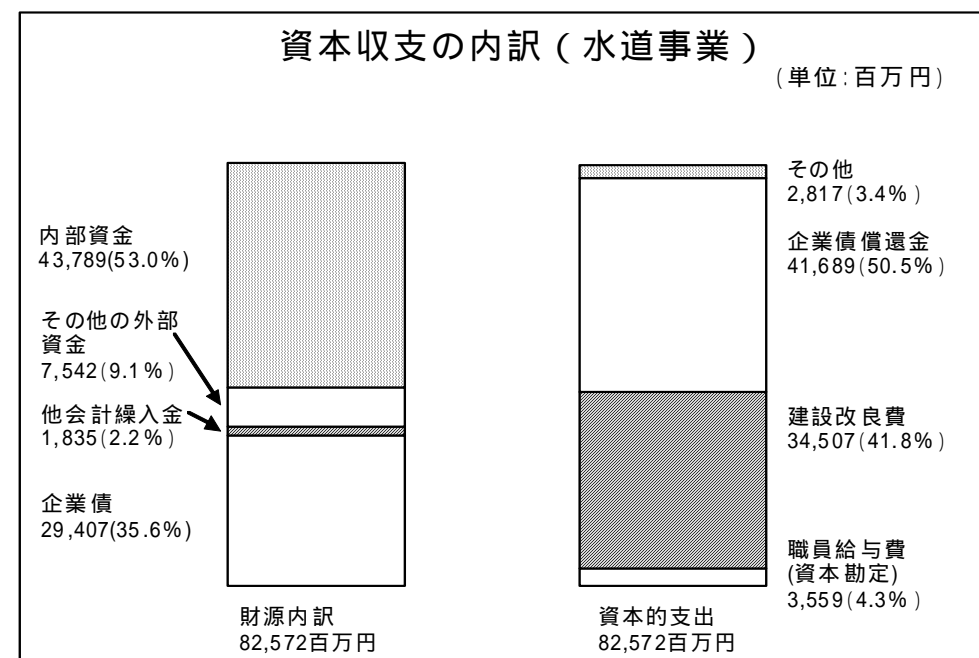
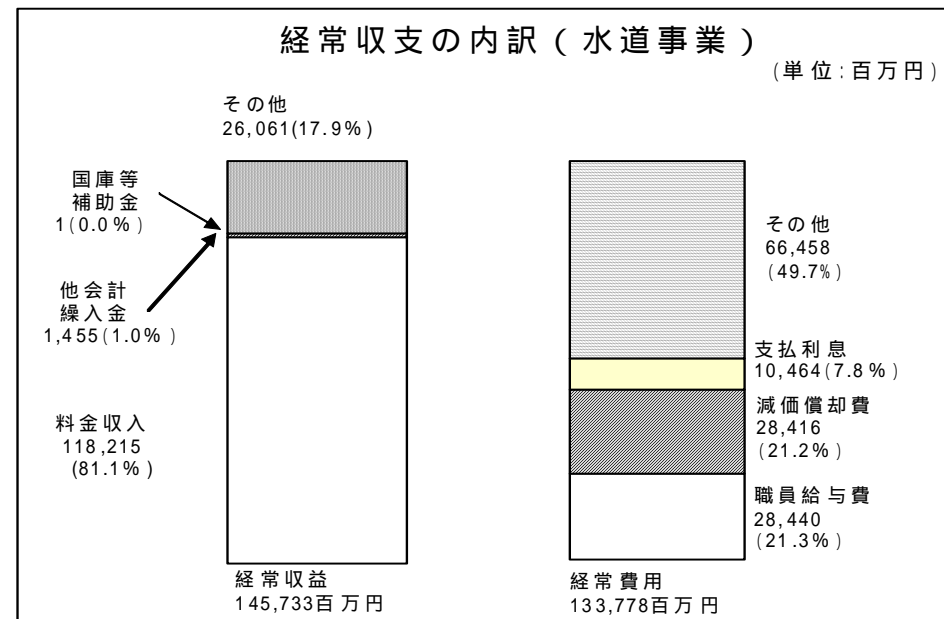
経常収益は 1,457 億 33 百万円で、前年度 (1,462 億 8 百万円) に比べ▲4 億 75 百万円、▲0.3%減少し、経常費用は 1,337 億 78 百万円で、前年度 (1,345 億 78 百万円) に比べ▲8 億 1 百万円、▲0.6%減少している。この結果、経常損益は 119 億 55 百万円の黒字で、前年度 (116 億 30 百万円) に比べ3 億 25 百万円、2.8%増加している。また、経常収支比率は 108.9%で前年度 (108.6%) に比べ0.3ポイント上昇している。

なお、平成 19 年度に経常利益を生じた事業は 17 事業で、前年度 (17 事業) と同数となっており、経常損失を生じた事業はない。また、累積欠損金を有する事業は2事業で前年度 (2事業) と同数となっている。

イ 資本収支

資本的支出は 825 億 72 百万円で、前年度 (640 億 84 百万円) に比べ 184 億 88 百万円、28.8%と大幅に増加 (補償金免除繰上償還を除くと 30 億 35 百万円、4.7%増加) している。このうち、建設改良費 (資本勘定職員給与費を含む) は 380 億 66 百万円で、前年度 (382 億 66 百万円) に比べ▲1 億 99 百万円、▲0.5%減少しており、企業債償還金は 416 億 89 百万円で、前年度 (240 億 8 百万円) に比べ 176 億 81 百万円、73.6%と大幅に増加している。

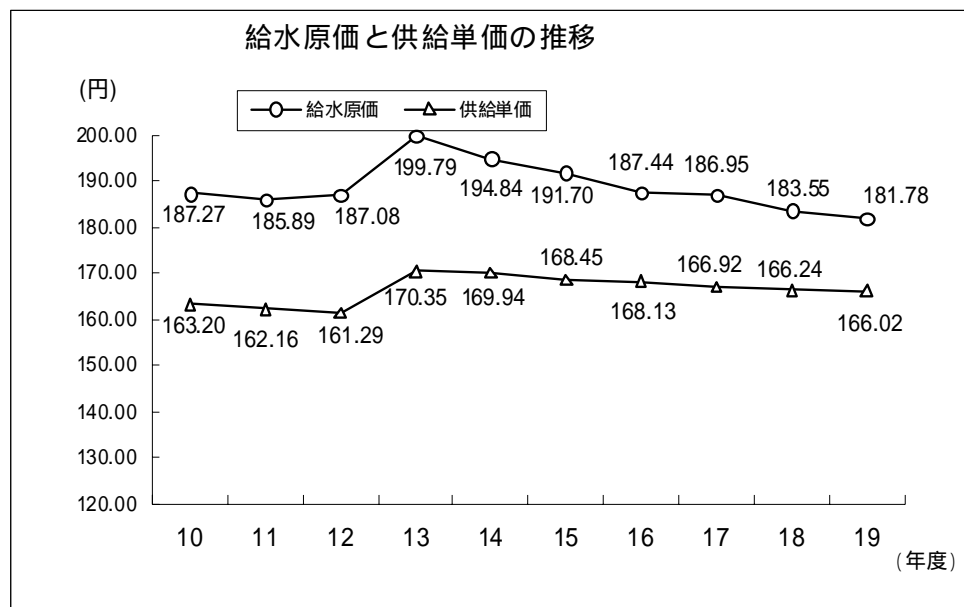
これに対する財源は、外部資金が387億84百万円で、前年度 (245億44百万円) に比べ142億40百万円、58.0%と大幅に増加 (補償金免除繰上償還に係る借換債を除くと23億46百万円、9.6%増加) している。外部資金のうち企業債が294億7百万円で、前年度 (165億80百万円) に比べ128億27百万円、77.4%の大幅な増加となっており、他会計繰入金が18億35百万円で、前年度 (21億78百万円) に比べ▲3 億43百万円、▲15.7%の大幅減となっている。一方、損益勘定留保資金等の内部資金は437億89百万円で、前年度 (395億40百万円) に比べ、42億48百万円、10.7%と大幅に増加している。



ウ 給水原価と供給単価

平成 19 年度における有収水量 1 m³当たりの給水原価は 181 円 78 銭で、前年度（183 円 55 銭）に比べ▲1 円 77 銭、▲1.0%減少している。このうち、資本費は 79 円 48 銭（前年度 80 円 21 銭）、職員給与費が 39 円 94 銭（同 42 円 70 銭）、その他の経費が 62 円 36 銭（同 60 円 63 銭）で、それぞれ全体の 43.7%、22.0%、34.3%を占めている。

一方、有収水量 1 m³当たりの供給単価は 166 円 2 銭で、前年度（166 円 24 銭）に比べ▲22 銭、▲0.1%減少している。また、給水原価と供給単価を比べると、供給単価が給水原価を▲15 円 76 銭（前年度▲17 円 31 銭）下回っている。



(3) 他会計繰入金の状況

水道事業の他会計繰入金は 32 億 90 百万円で、前年度（38 億 32 百万円）に比べ▲5 億 41 百万円、▲14.1%と大幅に減少している。

内訳は、収益的収入への繰入金が 14 億 55 百万円で、前年度（16 億 54 百万円）に比べ▲1 億 99 百万円、▲12.0%と大幅に減少しており、資本的収入への繰入金は 18 億 35 百万円で、前年度（21 億 78 百万円）に比べ▲3 億 43 百万円、▲15.7%と大幅に減少している。

また、基準外繰入金については、収益的収入では 1 億 35 百万円（収益的収入への繰入金総額の 9.3%）、資本的収入では 1 億 20 百万円（資本的収入への繰入金総額の 6.5%）で、繰入金総額では 2 億 56 百万円（繰入金総額の 7.8%）となっている。

他会計繰入金の状況

(単位:百万円,%)

項目	年度	19	18	増減	
				額	率
収益	基準内	1,320	1,548	228	14.7
	基準外	135	106	30	27.9
	計	1,455	1,654	199	12.0
資本	基準内	1,715	1,897	182	9.6
	基準外	120	281	161	57.3
	計	1,835	2,178	343	15.7
合計	基準内	3,035	3,445	410	11.9
	基準外	256	387	131	33.9
	計	3,290	3,832	541	14.1